

グループ名 ・代表者名	太平洋核被災支援センター 山下 正寿	助成金額	20万円
連絡先など	Masatosi.sky@orange.zero.jp		
助成のテーマ	ビキニ事件・福島原発被災と青年期教育		

【調査研究・研修の概要】

ビキニ水爆実験による第五福竜丸以外のマグロ船と貨物船などの被災の実態と乗組員の健康状態追跡調査」にこれまで取り組んできた。

1. 被災船員の歯・血液監査

2014年4月から、調査分析にとりくむ。被災船員19人(76～89歳)の血液調査で、異常を持つ細胞の出現頻度は平均3.34%、一般男性9人(75～84歳)の2.45%より0.85ポイント高かった。元船員の最大値は2倍以上5.17%だった。安定型異常と二動原体染色体異常ともに異常頻度は対象群と比べて有意に高く、実験場により近い船の船員ほど異常頻度は高かった。この結果は、加齢による一染色体異常の増加を排除したうえでも、推定被ばく線量にして約90ミリシーベルト以上にあたり「明らかに有意差がみられる」と分析した。

歯は高知県、宮城県の被災船員2名から提供された。放射線が当たると歯のエナメル質の化学結合が切れ、被ばく量に応じてその損傷部分も多くなり、その「傷」は残り続ける。高知の第五明賀丸の被災船員の歯の被ばく線量は、自然放射線・歯のレントゲン影響を差し引いて、319ミリシーベルト、広島原爆爆心地から1.6キロの被ばく線量に値し「普通の人ではありえない数値だ」と分析した。統計分析では、海上保安庁の航路記録に基づいて大滝教授が、航路図をシュミレーションした結果、水産庁などが危険を伝えて航路制限をすれば、こんなに多くの被災船が出なくて済んだのではないかと分析した。しかし現実には、第五福竜丸が寄港して大問題になっていながら、引き続き多くの漁船がマーシャル海域に操業にでていた。

2. 60年ぶりの厚労省の「ビキニ事件」情報開示

1986年3月、衆議院予算委員会での質問に対して「第五福竜丸以外の漁船の実態はつかんでいない」「水爆灰と疾病の因果関係を定めるのは医学的に見て非常に難しい、施策も困難」(厚生省)「調査は難しい。対策を講ずることはできない」(今井厚生大臣)と答えていた。

2013年NHK広島がアメリカ公文書館にて、ビキニ被災船のリスト発見し、11月外務省の情報公開がされた。この資料を基に厚労省に開示請求し、2014年9月に、60年ぶりに厚生省のビキニ被災船資料が開示された。開示内容は、専門家に依頼し、再検証委員会を準備中である。

【調査研究・研修の経過】

- 2014年4月・研究協力者代表者と連絡を取り、「センター」事務局会で年間活動計画をたてる(高知市)。
 ・広島大学など放射線医療関係の研究者と協力し、宮城・神奈川・高知などの被災船員健康調査・歯・血液分析をすすめる。
 7月・福島調査と高知の明神水産会長・福島の漁船員の交流活動を行う。
 ・「厚労省」にビキニ被災公文書開示の請求をする。
 8月・広島大学調査チームが広島大にて、第1回の分析結果発表を行う。
 ・「大震災・核被災に向きあう青年・学生の集い」原発問題を、福島と高知・静岡・埼玉・東京・京都・広島・山口などの高校生・大学生による共同調査・学習会を行う。
 9月・厚労省ビキニ被災公文書開示と記者発表。
 10月・参議院厚労省・農水省要請一厚生労働委員会で福島みずほ議員、農水委員会で紙智子議員質問。
 ・報告集「震災・核被災にむきあう青年学生の集い」(2000部)を作成し、関係機関に普及する。
 10～2015年3月・ビキニ事件・福島原発被災関連の学習会、「放射線を浴びたX年後」上映に参加し(高知・愛媛・福島・東京・静岡)、調査結果を報告し、国内外の研究者・ジャーナリストと協議し、関係資料配布する。
 3月・高知県主催「ビキニ健康相談会」を室戸市で開く。



厚労省から、556隻(実数473隻)の漁船の被ばく状況を調べた検査結果などを60年ぶりに開示させることができた。しかし、開示された文書は、一部の漁船の船員の血液検査・尿検査・医師所見などが黒塗りとなっていることなど、不十分な点が多いものだった。その結果についての記者会見の様子。黒塗りの文書を示している。

【今後の展望など】

- ・厚生省に関連文書の開示請求し、60年ぶりに開示させることができ、農水省からも開示され、引き続き分析中である。東京で「ビキニ再検証委員会」を開く予定である。
- ・8月に福島で8都県80人の「震災・原発に向き合う青年・学生のつどい」を開催した。「核被災」シンポジウムでは、広島・ビキニ・セミパラティンスク・福島を結ぶ討論が、高校生・大学生など青年によって展開された。この活動がドキュメンタリー映画「種まきうさぎ」に記録された。なお、現在、早稲田、関西大、愛媛大、高知大など学生が有志で「核被災研究」に取り組み始めつつある。
- ・はじめて高知県主催の「ビキニ健康相談会」が室戸で開催、引き続き11月、県西部で開催の準備中である。

参考文献(ウェブサイトや書籍、成果物など)

- ・NHKスペシャル「水爆実験 60年目の真実」2014年8月6日 60分
- ・NNNドキュメント「続・放射線を浴びたX年後」2014年8月17日 30分
- ・NNNドキュメント「放射線を浴びたX年後・3」2014年11月2日 51分
- ・太平洋核被災支援センター『震災・核被災に向き合う青年・学生の集い』
- ・太平洋核被災支援センター『「ビキニ事件」の立証—60年ぶりに開示された政府公文書を解く』